

日本分析化学会第68年会

1 はじめに

日本分析化学会第68年会は、9月11日(水)～13日(金)の3日間、千葉大学西千葉キャンパスで開催された。千葉県に甚大な被害をもたらした台風15号の影響でキャンパス内には倒木がみられたりしたが、交通機関もほぼ通常運行となり、天候にも恵まれたことから、学会の運営にはほとんど影響はなかった。本年会では、二つの産業界シンポジウム、若手の会主催のシンポジウムなど七つの特別シンポジウム、一般講演、テクノレビューポスター講演、ポスター発表および受賞講演が行われた。また、アジア諸国の研究者を交えた第5回アジア分析科学シンポジウムや新たな試みとして産と官学との交流を目的とした産官学交流カフェが開催された。有料参加者は1,119名であり、活発な討論がなされた。

2 講演

一般口頭講演(263件)が、千葉大学総合校舎G2, G3, G4およびG5棟の13会場で行われた。研究懇談会は、1日目の午後に6件、2日目の午前に6件、3日目の午前に6件の合計18件が開催され、それぞれの世話人のアレンジによる講演が行われた。ポスター発表は、千葉大学けやき会館にて、1日目と2日目に若手ポスター発表211件が、3日目には一般ポスター発表105件、テクノレビューポスター発表2件が行われた。

3 シンポジウム

(1)「第5回アジア分析科学シンポジウム(5th Asian Symposium on Analytical Sciences)」(9月11日午後)



千葉大学けやき会館正面(ポスター・展示会場授賞式等会場)

[オーガナイザー：津越敬寿(産総研)]

日本質量分析学会と日本分析化学会の合同企画の一環として「Asian MS」をタイトルとして、アジア地域の研究者による Invited lecture (4件)が行われた。

(2)「特別公開シンポジウム；産業界シンポジウム」として二つが企画され、開催された。

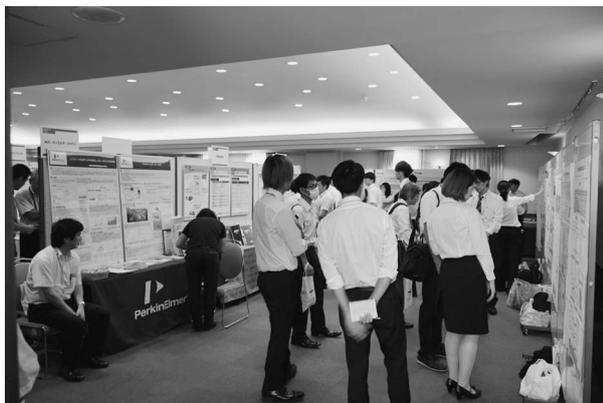
「分析部門における産学連携/社外大型設備の活用」(9月11日午後)

表1 第68年会分類別講演数一覧表

分類	一般口頭	一般ポスター	若手ポスター
01. 原子スペクトル分析	16	5	7
02. 分子スペクトル分析	9	1	14
03. レーザー分光分析	2	1	
04. X線分析・電子分光分析	11	8	7
05. 放射線計測による分析	1	1	1
06. 磁場を利用した分析		1	
07. 電気化学分析	18	1	9
08. センサー、センシングシステム	18	6	18
09. 熱分析			2
10. 有機微量分析		1	
11. 質量分析	3	3	7
12. マイクロ分析系	12	1	6
13. フローインジェクション分析	13	1	5
14. 液体クロマトグラフィー	11	10	12
15. ガスクロマトグラフィー	2	3	3
16. 電気泳動分析	8	1	3
17. 溶媒抽出法、固相抽出法、イオン交換系	6	8	18
18. 分離・分析試薬の設計	4	2	12
19. 分析化学反応基礎論	8	1	3
20. データ処理理論	1		
21. 標準試料		1	
22. サンプリング、前処理	2	2	1
23. 界面分析	17	1	12
24. 微粒子分析および微粒子利用分析	19	5	8
25. 宇宙・地球に関する分析化学	7	4	10
26. 環境関連分析	13	13	18
27. 無機・金属材料分析		1	2
28. 電池・エネルギー材料	1		1
29. 有機・高分子材料分析	6	3	7
30. 食品・農作物・ヘルスケア等分析	5	8	4
31. バイオ分析	32	5	12
32. バイオイメージング	8		2
33. 医薬分析		1	1
34. 臨床分析	4	4	5
35. 企業における分析解析活用と課題解決への適用	3		
36. その他	3	2	1



講演会場風景



ポスター会場兼展示会場

[オーガナイザー：岩畑大悟（味の素）]

石垣 徹（茨城大）、久米卓志（花王）、那須徳廣（三井化学分析セ）、松井高史（富士フィルム）、吉木昌彦（東芝研開セ）、水越利巳（味の素）の6名の講師の方々による講演が行われた。

「AI, MI時代への期待と課題II—企業におけるコンピュータサイエンスの現状—」（9月12日午前）

[オーガナイザー：鈴木真由美（富士フィルム）]

浦田新吾（AGC）、池端久貴（旭化成）、武田康助（花王）、篠原裕之（キリンビール）、木村英彦（豊田中研）の5名の講師の方々による講演が行われた。

(3) 特別シンポジウム

I. 「社会の公正と安全・安心に貢献する分析化学」（9月11日午後）公開

[オーガナイザー：上本道久（明星大理工）]

江坂文孝（原子力機構）、瀬戸康雄（理研）、植木眞琴（ADLQ）、花尻（木倉）瑠理（国立衛研）、奈女良 昭（広島大院法医）、福本真理子（北里大薬）の6名の講師の方々による講演が行われた。

II. 「生命現象における分析化学」（9月11日午後）

[オーガナイザー：小澤岳昌（東大院理）、吉本敬太郎（東大院総合文化）]

浜地 格（京大院工）、五十嵐龍治（QST）、菊地和

也（阪大院工）、野地博行（東大院工）、谷内江望（東大先端研）の5名の講師の方々による講演が行われた。

III. 「分析科学と核酸科学—相互刺激による相乗的展開—」（9月12日午前）

[オーガナイザー：井原敏博（熊本大院先端科学）、西澤 精一（東北大院理）]

栗田僚二（産総研）、川井清彦（阪大産研）、山東信介（東大院工）、吉本敬太郎（東大院総合文化）、佐藤慎一（京大化研）、竹中繁織（九工大院工）の6名の講師の方々による講演が行われた。

IV. 「講義「分析化学」を魅力的にするには？」（9月13日午後）公開

[オーガナイザー：藤浪眞紀（千葉大院工）]

斎藤恭一（早大院工）、宮村一夫（東理大理）、加納健司（京大院農）、東 達也（東理大薬）、火原彰秀（東北大多元研）、平山直紀（東邦大理）、藤浪眞紀（千葉大院工）の7名の講師の方々による講演が行われた。

V. 「タンパク質を素材とする分析ツールの進化デザイン」（9月13日午後）

[オーガナイザー：梅野太輔（千葉大院工）]

伏見 譲（埼玉大・JST）、宮崎健太郎（産総研）、上田 宏（東工大化生研）、田畑和仁（東大院工）、今村博臣（京大生命）、梅野太輔（千葉大院工）の6名の講師の方々による講演が行われた。

VI. 「プラズマ質量分析計によるナノ粒子の高感度・高速計測」（9月13日午後）

[オーガナイザー：平田岳史（東大院理）、敷野 修（パークインエルマージャパン）]

稲垣和三（産総研）、山下修司（東大院理）、立間 徹（東大院工）、小林恭子（パークインエルマー）、加藤晴久（産総研）、平田岳史（東大院理）の6名の講師の方々による講演が行われた。

VII. 「若手の会：分析化学のプレゼンスを拡大するキャリアビルディング」（9月13日午後）公開

[オーガナイザー：豊田太郎（東大院総合文化）]

岡田哲男（東工大理）、竹中繁織（九工大院工）、宮野博（味の素）、林 俊一（日本製鉄）の4名の講師の方々による講演が行われた。

4 付設展示会、ランチョンセミナー

千葉大学けやき会館にて、付設展示会が開催された。今回の機器展示には28社、書籍販売1社、カタログ展示2社の御協力を頂いた。若手や一般のポスター発表と同一会場で開催されたことから、展示会場も常に多くの来場者で賑わっていた。

大会期間中毎日の昼に、8件のランチョンセミナーが開催された。お弁当が提供され、かつ各企業の最先端技術や製品に関する説明を聴講することができる大変有意



学会賞授賞式

義な企画で、朝に当日分のチケットが配布されたが、あっという間になくなるほど、大変好評であった。

5 学会賞等授賞式、学会賞講演など

名誉会員推戴式、学会賞等授賞式ならびに学会賞受賞講演は、9月12日午後1時20分より千葉大学けやき会館大ホールにて行われた。

保倉理事の司会により、内山一美日本分析化学会会長の挨拶のあと、名誉会員推戴3名、学会賞3名、学会功労賞4名、技術功績賞3名、奨励賞5名、先端分析技術賞 JAIMA 機器開発賞1件、女性 Analyst 賞2名、分析化学論文賞6名、有功賞51名にそれぞれ賞状と副賞が授与された。なお、今回名誉会員に推戴されたのは、岡本佳男氏、垣内 隆氏、木村恵一氏であった。授賞式の後、ホール内ステージ上にて有功賞受賞者の記念撮影が行われた。

午後3時00分より、大谷 肇氏、竹中繁織氏、辻幸一氏による学会賞受賞講演が行われた。なお、技術功績賞の三宅司郎氏、宮野 博氏、山本博之氏、奨励賞の勝田陽介氏、小林宏資氏、下赤卓史氏、田邊一郎氏、西尾友志氏、JAIMA 機器開発賞の片岡由行氏、高貝慶隆氏、女性 Analyst 賞の上野祐子氏、吉田裕美氏、分析化学論文賞の堀井勇一氏の受賞講演は、関連する分類の一般口頭講演会場で行われた。

6 懇親会

懇親会は、9月12日の午後7時00分より、三井ガーデンホテル千葉の大宴会場にて開催された。今回、ミキサーは実施せず、若い方にも多く懇親会に参加いただいで、幅広い年代の方との交流を深める催しとし、335名の参加者があった。沼子千弥先生の司会のもと、藤浪眞紀実行委員長と内山一美会長の挨拶、関 実千葉大学理事（研究担当）ならびに中本 晃日本分析機器工業会会長（松浦義和専務理事代読）の来賓挨拶に続き、関東支部の名誉会員ら7名による鏡開きの後、小熊幸一千葉大学名誉教授の乾杯のご発声で懇親会が始まった。千葉



懇親会：関東支部名誉会員等による鏡開き



懇親会風景

県にも多くの酒蔵があり、そこから取り寄せた千葉の地酒（一升瓶で10本）と樽酒を触媒に楽しく充実した交流の場にしたいという実行委員会の方針で余興はなしとした。会の途中では関東支部若手の会幹事の豊田太郎先生から若手優秀ポスター賞16名の発表があった。また、第80回分析化学討論会の蠣崎梯司実行委員長（北海道教育大学）（代理 山田幸司氏）および第69年会の大谷 肇実行委員長（名古屋工業大学）より開催の紹介と誘いのお言葉があった。午後8時45分をもって宮野博副会長が中締め挨拶をしてお開きとなったが、なごりを惜しむ懇談が続き、午後9時過ぎにようやく会場の扉が閉じられた。

7 若手企画

若手企画の一つとして、若手ポスター発表に対する審査と表彰が行われた。若手ポスターは、1日目午前1セッション、午後2セッション、2日目午前1セッション各約50件の発表が行われた。若手の会を中心とした一般会員の審査員の厳正なる審査の結果、各セッションの上位4名（計16名）を若手ポスター賞に選出した。若手ポスター賞の審査結果は総合受付にて懇親会で発表し、また3日目朝に会場内に掲示した。受賞者には後日賞状を郵送した。若手ポスター賞の受賞者は、以下のとおりである（敬称略）：浅海裕一郎（東洋大）、

海老名彩乃(東理大), 佐伯健太郎(熊本大), 波多美咲(兵庫県立大), 武藤智也(東工大), 桑名李沙(富山大), 齊藤真希(大阪府立大), 嶋津里帆(慶応大), 川岸啓人(大阪府立大), 大塚理子(麻布大), 八井田朱音(麻布大), 西村拓哉(北大), 松山嗣史(大阪市立大), 三木雄太(愛知工大), 宮川晃尚(東工大), 加藤誠也(京大)。

今回は若手の会による特別シンポジウム(公開)として, 9月13日午後「分析化学のプレゼンスを拡大するキャリアビルディング」が開催された。3で記した4名の講演者から分析化学を切り口とした科学および産業への展開を紹介され, 若手研究者へのメッセージが発信された。シンポジウム自体は4時に終了したが, その後5時過ぎまで, 講演者および聴講者ら若手研究者の交流が続いていた。

8 その他

早下隆士関東支部長の発案で官学から12の研究室の主宰者が8分程度話題提供するという産官学カフェ(カフェと言ってもコーヒーは出ません)が, 9月11日午前10時から正午まで開催された。90名近い参加者があり, 産の方々からも官学の研究動向に大きな期待があることがわかった。

第12回生涯分析談話会[世話人: 澁川雅美(埼玉大)]が9月11日の午後4時から開催された。この談話会は, 分析化学会員が退職後も学会に参加し, 相互の交流

と親睦をはかることを目的としており, 今回は, 保母敏行氏(東京都立大学名誉教授)による講演と懇親会が行われた。

第15回女性研究者ネットワークセミナー[世話人: 金澤秀子(慶応大), 沼子千弥(千葉大)]が9月11日11時45分から行われた。女性Analyst賞を受賞された上野祐子氏, 吉田裕美氏を迎え, ランチやお菓子を食しながら和やかな雰囲気の中, 情報交換会が行われた。

9 おわりに

本年会に参加された皆様, 特別公開シンポジウム・産業界シンポジウム等でご講演いただきました講師の方々, 展示会等に出展いただきました関連企業・団体の皆様に深く御礼申し上げます。大会直前の台風上陸により, 多くの方にご心配をおかけしましたが, 表面上は大きなトラブルもなく盛会裏に年会を開催することができました。本年会に向け, 長い間の事前準備と年会中の円滑な運営をご担当頂きました日本分析化学会関東支部を中心とした実行委員会の皆様, 分析化学会本部事務局の皆様ならびにアルバイトの学生諸君のご尽力に心より感謝申し上げます。また, 千葉大学職員の皆様, 懇親会等で千葉コンベンションビューローからも大きなご支援いただきました。この場をお借りして厚く御礼申し上げます。

[千葉大学大学院工学研究院 藤浪真紀]

原稿募集

ロータリー欄の原稿を募集しています

内容

談話室: 分析化学, 分析方法・技術, 本会事業(会誌, 各種会合など)に関する提案, 意見, 質問などを自由な立場で記述したもの。

インフォメーション: 支部関係行事, 研究懇談会, 国際会議, 分析化学に関連する各種会合の報告, 分析化学に関するニュースなどを簡潔にまとめたもの。

掲示板: 分析化学に関連する他学協会, 国公立機関の主催する講習会, シンポジウムなどの予告・お知らせを要約したもの。

執筆上の注意

1) 原稿量は1200~2400字(但し, 掲示板は

400字)とします。2) 図・文献は, 原則として使用しないでください。3) 表は, 必要最小限にとどめてください。4) インフォメーションは要点のみを記述してください。5) 談話室は, 自由投稿欄です, 積極的発言を大いに歓迎します。

◇採用の可否は編集委員会にご一任ください。原稿の送付および問い合わせは下記へお願いします。

〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2
五反田サンハイツ304号
(公社)日本分析化学会「ぶんせき」編集委員会
〔電話: 03-3490-3537〕